

IIBC NEWSLETTER

July 2022 Vol. 146

Makieigo スクール
西牧 健太さん

合同会社 DMM.com
佐藤 奈美さん

IIBC
永井 聡一郎

特集
これからますます
求められる
英語での
スピーキング力

p2 Part1

英会話学習のプロに聞く
スピーキング力の高め方

p6 Part2

能力が正確に分かり、
実践的なスキルも磨ける
TOEIC® Speaking Test

英語がもたらした
私のターニングポイント

p8 パラ競泳選手
木村 敬一さん

English Frontline
eスポーツを通じて英語を学ぶ
「ゲーミング英会話」 p10

IIBC 高校生英語エッセイコンテスト
新しいテーマに込めた思い
p11

Part 1

英会話学習のプロに聞く スピーキング力の高め方

コロナ禍で様々な環境の変化が生まれ、英語でのオンラインミーティングの増加などによりスピーキング力が求められる中、日々、英会話学習の指導者として活躍されているお二人をお招きし、IIBC普及部門(営業)の責任者・永井聡一郎が、スピーキング力を高めるために必要なこと、また、TOEIC® L&RやTOEIC® Speakingの有効活用法などについて話を伺いました。

コロナ禍で高まる

スピーキング力向上への意欲

永井：お二人は今、どのような業務に従事していらっしゃるのでしょうか。

西牧：フリーランスで、英語コーチと講師をしています。「Makieigoスクール」を個人で運営するほか、大学や専門学校、英会話スクールなどで、ビジネスパーソンから子どもまで幅広く英語を教えています。



西牧 健太さん
Makieigoスクール運営・
英語コーチ
TOEIC® L&R 990点
TOEIC® S&W 各200点

佐藤：私は、合同会社DMM.comの英会話事業部で、英語コーチングサービスのカリキュラムを設計しています。当社に入社する前は、コーチングサービス会社や英語学校などで、英語コーチや講師をしていました。

永井：コロナ禍で様々な環境が変わる中、英会話学習に関しても変化はあるのでしょうか。

佐藤：オンラインで気軽に学べるようになったことで、英会話学習者の人数が増えているのではないかと考えています。当社のオンライン英会話サービスでも、新型コロナウイルス感染症拡大の前と比べ、受講生の数が1.4倍^{*}になりました。特に法人のお客が増えています。

西牧：ある英語スクールの調査によると、回答者の半分以上が、コロナ禍になってから英語を身につける必要性を感じるようになったと答えています。更に、伸ばしたいと思う英語力を聞いたところ、第1位は「英語を話す力」だったそうです。

私も、今後はスピーキングの重要性が更に高まると予想しています。最近は自動翻訳ツールの精度が上がっていますが、人の心を動かすことは、同じく人の言葉でなければできません。そう考えると、意識的に英語でのスピーキング力を高めていくことが必要だと思います。

英語の能力を満遍なく高め

スピーキング力の向上を目指す

永井：英語4技能の中でも、スピーキングに対し苦手意識を持つ日本人は多いと思います。スピーキング力が身につけにくいのは、どのようなことが原因なのでしょうか。

西牧：様々な要因があると思いますが、1つはスピーキング力のバランスが悪いことだと思います。スピーキング力には3つの要素があるとよく言われます。スムーズに話せる「流暢さ」、

正しく話せる「正確さ」、複雑な文章が作れる「複雑さ」です。この3つで見た場合、日本人の英会話学習者によく見られる傾向は、正確さを重視し過ぎる一方、流暢さが欠けているということです。冠詞の“a”と“an”のようなことでいちいち迷ってしまい、話し方がギクシャクして、相手が理解できなくなるのです。

佐藤：正確さを気にし過ぎて、ほかがおろそかになっていることに対しては私も同感です。多少間違っていてもいいので、素早く気軽にコミュニケーションを取ることは、スピーキングにおいて重要だと思います。

永井：日本人のスピーキング力が低い理由には、「聞き取れていない」ということもあるのでしょうか。

西牧：英語が飛び交う会議で、リスニングに関しては全く問題ないという人は、超上級者を除いてほとんどいないのではないのでしょうか。ただ、ビジネスの現場では、聞き直すとしてもせいぜい1～2回まで。なかなかそれ以上は聞き返せません。

佐藤：英語の会議についていけない、という声は私もよく耳にします。ビジネス英会話では、日常英会話とは異なり、プレゼンテーションや報告といった、まとまった量の英語を一気に聞き取る必要があります。これができないという人が多いようです。ビジネス英語を聞くには持久力が必要で、それがないと、何を言っているのか分からなくなり、スピーキングもできなくなるのです。

西牧：そのほかスピーキングには、状況に合わせて敬語やフレンドリーな口調などを使い分ける「社会言語学的能力」、一貫した話ができる「談話能力」、英語能力が足りないときに言い換えたり、聞き返したりしてなんとかする「方略的能力」といった、様々な能力が求められます。スピーキング力を向上させるには、正しい文法で一方的に話せるようになるだけでなく、リスニング力や理解力など、英語に関わる能力を満遍なく高めていくことが大切です。

スピーキング力の地固めには

TOEIC® Programの活用が最適

永井：スピーキング力向上に向け、英語に関わる能力を満遍なく高めるためには、何から始めればよいのでしょうか。

佐藤：私は「大量のインプットと少量のアウトプット」が重要だと思います。すぐに話せるようになりたいからといって、毎日英会話の学習をしているだけでは、なかなかスピーキング力は伸びません。単語や文法の量が増えないと話せるようにはな

らないのです。

西牧：英会話初中級者の方であれば、中学文法を押さえてから高校文法を学び、単語を3,000～4,000個覚える。ここまでのインプットは最低限必要です。

佐藤：ちなみに私は、一応上級者の部類に入るとは思いますが、これ以上英語力を上げようと思ったら、更に単語力を強化することが必要だと思っています。やはりインプットは欠かせないのです。当社のオンライン英会話を使ったコーチングサービスは、アウトプットが中心のように見えますが、実はインプットが中心です。

永井：スピーキング力を高めたい人は、どのようにインプットをしていけばいいのでしょうか。

西牧：特に勉強に慣れていない初級者の方は、何からインプットすればいいのかわからないと思います。そこで私がおすすめしているのは、TOEIC® L&Rを題材にして学習することです。文法にしても単語にしても、TOEIC® L&Rに関係する参考書や問題集を学べば、バランス良く身につきます。

佐藤：全く同じ意見です。私自身、長期の留学経験がないにもかかわらず英語講師になれたのは、高校時代からTOEIC®

佐藤 奈美さん
合同会社DMM.com
英会話事業部
企業法人チーム
コーチリーダー
TOEIC® L&R 990点
TOEIC® Speaking
170点
TOEIC® Writing
190点



L&Rに向けた学習を継続してきたからです。闇雲に勉強するよりもTOEIC® L&Rをベースにした方が学習しやすく、英語力が上がりやすいのは間違いありません。

永井：TOEIC® Programにはスピーキング力を測るTOEIC® Speakingがあります。受験者の中には、テストを受けて自分の英語能力の現在値をスコアで知り、目標を立て、スコアが伸びなければ、学習の軌道修正を行うといった学習サイクルを回すことで、効率良く成果を上げている方がいらっしゃいます。目標にするとしたらこちらでしょうか。

西牧：TOEIC® Speakingは私も受験していますが、スピーキング力を高めるには最適で、学習教材としても活用できと思っています。現に私自身、これでスピーキング力が向上しました。しかし、単語や文法などの基礎が身につけていないと太刀打ちできませんので、まずTOEIC® L&Rで基礎固めをした方がいいと思います。

佐藤：理想を言えば、TOEIC® L&Rのスコアを上げてからTOEIC® Speakingを受けると、スムーズに進められると思っています。

西牧：TOEIC® L&RとTOEIC® Speakingを同時に勉強すればいいと考える人もいますが、学習初心者の方は、課題が増え過ぎてしまうかもしれません。

佐藤：自分の現状の実力を確認するために、試しにTOEIC® Speakingを受験してみるのはいいいと思います。その後は、焦ることなく、TOEIC® L&Rを繰り返し学習し、ある程度のスコアを取得したらTOEIC® Speakingを受験するといいいと思います。

英語力向上の壁は

英語能力以外にもある

永井：英会話学習においてつまづきやすい方の傾向があれば、教えてください。

西牧：私の受講生でよくいらっしゃるの、自主学習の方法がなかなか身につかない方です。これまであまり学習されてこなかった方は、その習慣やスキルが身につけていないことが多いので、英会話に関してもなかなか上達しにくいところがあります。英会話を教える前に、学習のためのスキルをお教えることは少なくありません。

佐藤：私も、英会話学習者の方をサポートしてきて思うのは、英語力以前のところでつまづいている方が多いことです。よくお見かけするのは「言いたいことがない」方。英会話をしてい

ても、適切な単語や表現が出て来ないのではなく、何も主張がないので続かないということが少なくありません。実は、当社のコーチング英会話でも、最初に指導するのは主張や意見についてなのです。

西牧：メンタル面でつまづかれる方も多くいます。間違えたり、イレギュラーなことに対応できなかったり、と自分が思うようにできないことに対して大きなストレスを感じてしまう方は、小さな失敗でも嫌になり、学習自体が続かなくなってしまいます。

佐藤：学習を始めるときは誰でも、知らないことばかりで間違いながら成長していくという過程をたどる、赤ちゃんと同じような状態にあると思っています。そのような状態であると認識することは、英会話学習においてもすごく大事なのですが、大人になればなるほどそれが難しくなるものです。まして、仕事でもある程度の地位があり、学歴もあると、「英会話ぐらいできるはず」と悪い意味で暗示をかけてしまい、赤ちゃんになりきれず、その結果、モチベーションが維持できなくなるのです。

永井：メンタルの課題を克服するためには、コーチの立場として何をすればいいとお考えでしょうか。

佐藤：正直なところ、メンタル面でコーチができることは少ないと思います。ご自身で克服していただくしかありません。ただ、コーチとしては、「間違っても大丈夫という気持ちになれない限り、スピーキング力は伸びません」とはお伝えしています。

西牧：そういう方は、英会話での成功体験を積み重ねることができるといいかもしれません。例えば、私の受講生で、英会話を目的とした交流会に申し込んだが、現地に行ったら怖くなってしまい、ドアを開けられなかったという方がいらっしゃいました。そういう方に「まずドアを開けることから始めましょう」と一歩一歩進んでいただくよう後押ししました。

すると後日、その方が出張先で困っている外国人を見掛けたそうで、30分迷ったあげく声を掛けただけで英会話が続き、仲良くなれ、すごく自信がついたそうです。

そのような「英語で通じた」という成功体験を積み重ねていくことが、メンタル面での課題を克服していくための近道になると思います。

英語でのスピーキング力を身につけるために

正しい方法で効率良く継続的に学習する

永井：最後に、英会話を学習されている皆さんに応援メッセージをお願いします。

佐藤：英語でのスピーキング力が身につけられない人はいないと私は考えています。日本人の多くの方が日本語を話すことができるのですから、言語を話す能力は必ず備わっています。身につけるために大切なのは、正しい方法で効率良く学習していくことです。それを継続できれば、必ず身につきます。是非諦めずがんばってください。

西牧：「英語なんて言葉なんだ。やればできる」と英語の名物

講師の方がおっしゃっていますが、私もその通りだと思います。英会話はやればできるのです。

今後は英会話ができないと困る時代になってくると思います。日本の人口が減ることで、嫌でも海外に行かざるを得ない時代は確実に近づいています。特に若い方は、今のうちから英会話を学習されておいた方がいいと考えています。

永井：今日はありがとうございました。

▶ インタビューを終えて

永井 聡一郎

お二人から TOEIC® Speaking の有効な活用方法についても色々教えてくださいました。TOEIC® Speaking はそのほか、英会話学習のモチベーションを高める上でも役に立ちます。実際に受験者の方にアンケートを取ったところ、75%以上の方が「難しかったが、モチベーションが上がったからまた受けたい」と回答されました。

TOEIC® Speaking は、実践の場で行われている英語でのコミュニケーションがリアルに反映されています。TOEIC® Speaking を目標にして一生懸命学習していけば、それがそのまま実力アップへとつながります。TOEIC® Speaking を活用して、間違いを恐れず、自分の意見を英語で伝えていくということに、是非トライしていただければと思っています。



西牧 健太さん / Makieigo スクール

海外留学前、日本にいながら独学で TOEIC® L&R990 点を取得。日本の大学を卒業した後アメリカとポーランドに渡り、言語学習の科学を極めるために大学院で心理言語学を学ぶ。外資系企業で実践的な経験を積み、その後、英語コーチングスクールでコンサルタント兼語学研究所の所長を務める。これらの知識と経験を活かし、現在はフリーランスとして、TOEIC® L&R、TOEIC® S&W、ビジネス英会話を中心に、どんなレベルの人にも適切な指導ができるコーチとして活躍中。



佐藤 奈美さん / 合同会社 DMM.com

大手英会話スクールにて英語講師として勤務後、英語コーチングサービス提供会社にて、英語コーチとして、延べ80名の受講生の目標達成を実現。2021年、DMM英会話にコーチリーダーとしてジョイン、DMM英会話コーチングサービスの立ち上げを担当。同社では、今春「法人向けコーチングサービス」がスタート。コーチによる定期面談・目標別にカスタマイズされた学習方法で、英会話力の伸びを実感できるという特色がある。



Part 2

能力が正確に分かり、実践的なスキルも磨ける TOEIC® Speaking Test

グローバルな舞台で行われるビジネスの現場などでは、英語で正確に伝えるスピーキング力が欠かせません。その力を身につけるために活用されているのがTOEIC® Speakingです。スピーキング力を正確に測定するテストとして、かつ、実践的なスキルが磨けるテストとして機能するTOEIC® Speakingの特長や、正確性の高い独自の採点システムなどを紹介します。

英語でのスピーキング力を身につけるために 活用されるTOEIC® Speaking

ビジネスや実生活で英語を使うときには、「相手の要求をしっかり理解して、素早く正確に伝える」ことが重要です。特にビジネスの現場などでは、様々なシチュエーションにおいて英語を正確に活用することが求められます。そのため情報を正確にインプットするリスニング力はもちろん、正確に伝える(アウトプットする)スピーキング力が欠かせません。

スピーキング力を身につけるためにはそれに応じた学習が必要になりますが、その際利用されているのがTOEIC® Speakingです。TOEIC® Programの開発・制作機関である、アメリカの非営利団体ETSが開発したTOEIC® Speakingは、スピーキング力を正確に測定するテストとして、かつ、実践的なスキルが磨けるテストとして活用されています。

「意思疎通」に重点を置く

TOEIC® Speakingの採点

TOEIC® Speakingの問題数は全11問(0～200点)で、大きく「音読」「写真描写」「応答」「提示された情報に基づく応答」

TOEIC® Speakingの出題例

Question 5-7 応答問題 3問

身近な話題についてインタビューに答えるなどの設定で、同じトピックに関する3つの短い設問に答えてください。ディレクションに続きイントロダクションと設問が画面に表示され、音声も流れます。ピープ音が鳴ったら解答してください。

▶ 例題3 ※画面に表示される・音声も放送される

Introduction:

Imagine that a Canadian marketing firm is doing research in your country. You have agreed to participate in a telephone interview about television viewing.

設問1 How often do you watch television?

設問2 What kinds of programs do you usually watch?

設問3 Describe your favorite television program.

TOEIC® Speakingの概要

問題と解答の形式

約20分間・11問・スコア0～200点(マークシート方式ではなく人が採点)

| | 内容 | 問題数 |
|---------------|--|-----|
| Question 1-2 | 音読問題 アナウンスや広告などの内容の短い英文を音読する | 2 |
| Question 3-4 | 写真描写問題 写真を見て内容を説明する | 2 |
| Question 5-7 | 応答問題 身近な問題についてインタビューに答えるなどの設定で、設問に答える | 3 |
| Question 8-10 | 提示された情報に基づく応答問題 提示された資料や文書(スケジュールなど)に基づいて、設問に答える | 3 |
| Question 11 | 意見を述べる問題 あるテーマについて、自分の意見とその理由を述べる | 1 |

「意見を述べる」の5カテゴリーに分かれています。どの問題も、日常生活やビジネスシーンでのやり取りを想定した内容で、音声とともにパソコンの画面に表示された問題に対し、約20分でマイクを通し解答する形式です。

例えば「応答問題」では、3つの身近な問題に対するインタビューを受け、1・2問目が15秒、3問目が30秒といった制限時間内で解答します。

TOEIC® Speakingの採点に関しては、「意思疎通」に重点を置いているという特長があります。そのため発音が流暢でなく、多少文法的にミスがあったとしても、意思疎通に問題がなければ採点スケール(4～6段階)に大きく影響することはありません。自分の言いたいことが相手にきちり伝われば、加点評価される実践的なテストです。

具体的な採点方法としては、「発音」「文法」「一貫性」「イントネーション・アクセント」「語彙」「内容の妥当性」「内容の完成度」の7項目で採点を実施。問題によって異なる採点スケールでそれぞれの項目を評価し、各カテゴリーのスケールを算出します。

ヒューマンエラーを防ぐ

独自の採点システム

TOEIC® Programというと、マークシート方式のイメージがあるかもしれませんが、TOEIC® Speakingに関しては、人が採点しています。人が行う採点では、偏見や先入観などを含

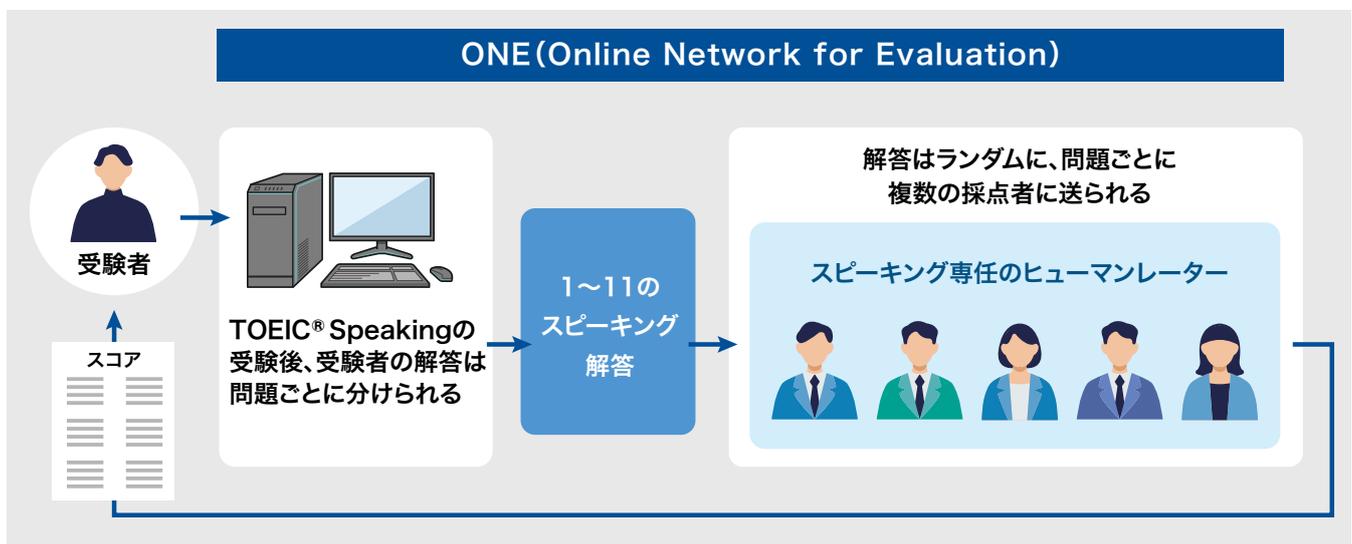
めたヒューマンエラーの発生が問題となります。一般的に、英語のスピーキングテストの採点ではその傾向が強く見られるため、ETSは、ヒューマンエラーを最小限にする、正確性の高い独自の採点システムを開発しています。

主な特長としては、採点者のスキルを常に高く保つ仕組みを取り入れていることが挙げられます。採点は、正式に認可を受けた大学の学士以上の学位を持ち、英語の非母語者への指導経験があるとともに、ONE (Online Network for Evaluation) というシステムで訓練を受けた有資格者の「ヒューマンレーター(採点者)」が実施。ヒューマンレーターには、毎日、採点の正確度を測る「カリブレーションテスト」を受けることが求められており、合格できなければ、その日は採点することができません。

また、1つの問題につき、複数のヒューマンレーターが採点するという特長もあります。受験者ごとに最低3人が振り分けられ、平均で、受験者1人に対して5人が採点を行っています。ヒューマンレーターは問題ごとに変わる上、受験者の名前やスコアを見ることができません。そうすることで、偏見や先入観などが入った不適切な採点が行われないようにしているのです。

TOEIC® L&Rで一定のスコアをクリアされている方は、是非、TOEIC® Speakingにも挑戦され、現時点でのスピーキング力を把握するとともに、実践的なスキルを磨くためのテストとして活用されてみてはいかがでしょうか。

複数のヒューマンレーターが採点



海外に拠点を移し英語を学ぶ その経験が自分の世界を広げた

東京2020パラリンピック競技大会で、金メダルを獲得したパラ競泳選手の木村敬一さん。環境を変えたいと、単身アメリカに拠点を移し、2年間トレーニングを重ねました。その経験は、自分自身の世界を大きく広げる、特別なものになったそうです。

●パラ競泳選手
木村敬一さん

Profile

1990年滋賀県生まれ。2歳で病気により失明。小学4年生から水泳を始め、筑波大学附属盲学校(現・筑波大学附属視覚特別支援学校)で水泳部に所属。ロンドン2012パラリンピック競技大会では銀メダルと銅メダルを、リオ2016パラリンピック競技大会では銀メダル2つと銅メダル2つを獲得。18年から2年間、アメリカに活動拠点を移す。東京2020パラリンピック競技大会では、金メダルと銀メダルを獲得。21年紫綬褒章受章。著書に『闇を泳ぐ 全盲スイマー、自分を越えて世界に挑む。』(ミライカナイ)がある。

とにかく環境を変えたい一心で アメリカへ活動拠点を移す

水泳を始めたのは小学4年生の頃です。2歳のときに病気で失明しましたが、元々体を動かすのが大好きだったので、すぐ泳ぐことに夢中になりました。中学校に入ると実力もついてきて、3年生のときにはアメリカで行われたジュニアの国際大会に参加。それが初めての海外体験です。この頃から、英語が話せたら色々な国の選手と交流できていいなという思いはありましたが、それで英語の勉強をがんばったかという、そんなことはありませんでした。

2008年、17歳で北京2008パラリンピック競技大会に出場し、次のロンドン2012パラリンピック競技大会では銀メダルと銅メダルを獲得。そして3回目のリオ2016パラリンピック

競技大会で、僕はただ1つ、金メダルを目指しました。しかし、結果は銀メダル2つと銅メダル2つ。4年間つらい練習に耐え、やれることは全てやってきたのに、それでも金メダルに届かなかった。それは大きなショックで、次に向けてそれまで以上にがんばるのは無理だと心が折れてしまいました。

環境を変えて、もう一度新しい気持ちで水泳と向き合いたい。昔から漠然と海外に憧れを抱いていたので、今がチャンスだと思い、拠点を移すことを決意しました。正直、より良い練習環境を求めて行くというより、現状から逃げ出したいという感覚でした。トレーニングがうまくいかなくても、海外で新しい生活をするので得られるものがきっとある。人生トータルで見たらその方がいいに違いないと思いました。だから、英語ができないとか目が見えないことに対する不安より、ワクワク

した気持ちの方が大きかったですね。

とはいえ海外にツテなどありません。思い浮かんだのは、大会のときに挨拶を交わす間柄だったアメリカ代表のブラッドリー・スナイダー選手。早速、SNSを使い、勇気を出してつたない英語で彼に連絡を取ってみると、なんと快くコーチと練習場所を紹介してくれることになったのです。

● 自分に関係のある

身近な語彙を増やしていった

18年4月、アメリカ東海岸・ボルチモアに単身で引っ越し、スナイダーの恩師であるブライアン・レフラーコーチの下でトレーニングを始めました。並行して現地の語学学校にも入学。この学校では全盲の学生を受け入れるのは初めてで、先生やクラスメートたちも協力してくれて、点字パソコンを持ち込み、ほかの学生と一緒に授業を受けました。当時、英語の実力は高等学校卒業レベルで自信がなかったのですが、様々な国から来た学生の中には英語が全くできない人もたくさんいて、僕はすぐに上のクラスに上がりました。

しかし、英語の環境にただで自然と話せるようになるのは子どもだけだと痛感しました。僕はもう20代後半だったので、努力して身につけようとしなければ向上しません。そこで1人のときは、ひたすら語彙を増やすことに注力しました。できるだけ自分に関係のあるパラリンピックや地元ボルチモアに関連する記事などを点字で読んで、次の日に語学学校や水泳の仲間との会話で話題にすることで、日常生活で使える単語を増やしていったのです。

トレーニングでも、最初はコーチの指示が聞き取れなくて困ることがありました。ゆっくりのペースでいいと言われたのに、1人だけフルパワーで泳いで疲れ果てたこともあります。それでも基本はマンツーマンの対話だし、自分もよく知っている範囲で話ができるので徐々に慣れていきました。パラリンピック選手でアメリカ代表のマッケンジー・コーンがトレーニングパートナーになって、明快な英語でサポートしてくれたのも助かりました。

大変だったのはオフの時間です。ネイティブスピーカーの友人が何人かで雑談を始めると、会話についていくのは至難の業でした。またあるときは、マッケンジーと一緒に小学校にパラ



アメリカでのトレーニング中に、ブライアン・レフラーコーチ(写真左)と

リンピアンとして講演に行ったのですが、子どもの英語はとてつもなくブロークンで、こちらに気を遣ってしゃべってはくれないので、本当に聞き取りにくい。それをマッケンジーに分かりやすい英語に直してもらって僕が答えると、今度は僕の発音が彼らに通じないんで

す。仕方なくまたマッケンジーに英語から英語に通訳してもらって、その場を何とか乗り切りました。

それから、盲学校のイベントを1人で手伝いに行ったときも、英語で苦労しました。目が見えない人同士のコミュニケーションは言葉が全てです。逆に言うと、言葉が分からないとどうしようもない。自分からお願いして手伝いに行ったのに英語による意思疎通が難しく、あまり役に立てなくて悔しい思いをしました。それでも助けてくれる人は必ずいて、最後はみんなと仲良くなれていい思い出になりました。



トレーニングパートナーのマッケンジー・コーン選手(写真左)と談笑する木村さん

● 英語の勉強を続けるコツは

明確な目的を持つこと

20年3月、新型コロナウイルス感染症の影響で予定を早めて帰国することになりました。単身アメリカ生活は2年で終わりましたが、僕の人生の中でとても濃厚で特別な経験になりました。英語に通じないこともしょっちゅうあったけれど、それでも日々、成長を実感できました。全部がうまくいかなくても、自分がやれることをやればそれでいい。そんな余裕と自信が生まれて、それが水泳にも良い影響を与えたと思います。

21年8月、延期の末に開催された東京2020パラリンピック競技大会で、僕は念願の金メダルを取ることができました。大会期間中、短い時間ではありましたが、スナイダーやマッケンジーと再会できたのが何よりうれしかったです。

僕の場合はもう一度前向きに泳ぐために、思い切ってアメリカにトレーニングの拠点を移し英語を学んだことで、結果的に友人ができ、行ってみたいところも増えて、自分の世界が大きく広がりました。これから英語を勉強しようと考えている方は、ただ英語が話せるようになりたいと漫然と思うだけでなく、英語で何をしたいかをはっきりさせておくといいと思います。そうすれば覚える単語やフレーズのジャンルにも1つの軸ができて、英語をより確実に身につけられるはずです。

それからもう1つ、発音は思っている以上に大事です。文法が合っても発音が悪いと通じないことが多々あります。僕はスマートフォンの音声入力を英語にして、正しく入力されるまで何度も発音し直して練習しています。これは結構効果があったので、良かったら試してみてください。

eスポーツを通じて 英語を学ぶ「ゲーミング英会話」

プログラミングなどに欠かせない英語を 楽しみながら学ぶ場を提供する

2020年度より小学校の高学年で外国語科が導入されるなど、子どもたちと英語との関わりは変化してきています。そのような中、レッドホースコーポレーション株式会社は、自社で運営するデジタル教育施設「REDEE (レディー)」(大阪府吹田市)において、ゲームを通して英語を学ぶ、ゲーミング英会話カリキュラムを21年4月から開始しました。

REDEEは、子どもたちがeスポーツやプログラミングなどを通じて、科学技術をはじめとした様々な学びを得ることを目的に、20年3月にオープン。小学校でのプログラミング教育必修化などの影響もあり、多くの子どもたちがプログラミングに関するカリキュラムなどを受講しています。

「プログラミングのコードは英語であったり、eスポーツは海外の方が盛んであったりと、これらの業界で英語は欠かせない

スキルの1つです。また、ほかの業界を志すとしても、英語を身につける重要性は一層高まっています。そこで、子どもの頃から英語に親しむことができる環境を作りたいと考え、eスポーツを楽しみながら英語を学ぶ、ゲーミング英会話を始めることにしました」と話すのは、REDEE副館長の古川速人氏です。



REDEE副館長の古川速人氏

子どもたちに人気のゲームを使い 日常的にも使う表現を学ぶ

ゲーミング英会話には、取り組むゲーム(eスポーツ)が異なる、「FORTNITE英会話」と「マインクラフト英会話」という2つの講座があり、両方とも英語初心者を対象にしています(22年3月現在)。

進め方も共通で、最初の15分間、ゲームの中で使う英語の単語やフレーズを学び、それらを使いながら35～40分ほどゲームをプレイ。最後にもう一度、振り返りを行います。学ぶ英語の表現は、ゲームごとに異なり、例えば「FORTNITE英会話」であれば、チーム対抗で宝箱を探すゲームをするため、「助けて」や「あっちに行って」といった、チームメイトと連携してプレイするための表現を学びます。

「ゲームで使う表現は、日常的に使用するものも多く含まれています。動作に関する英語であれば、実際にその動きをしながら教えるなど、興味を持てるよう工夫しています。一方で、英語を話すスピードは、あまり遅くしすぎないように心掛けています。せっかくネイティブスピーカーと話すチャンスですから」と語るのは、アメリカ出身でゲーミング英会話の講師を務めるダイヤモンド・ファイト氏です。

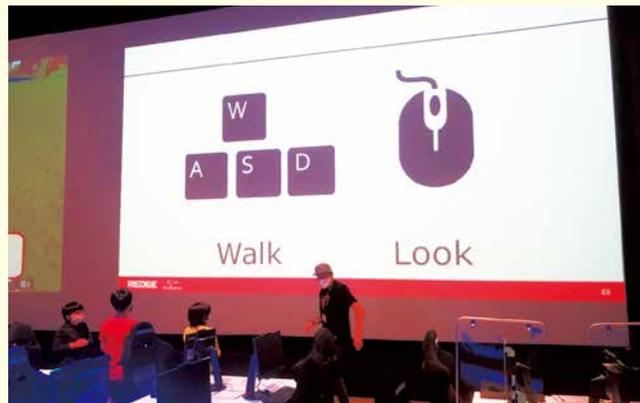
受講者は小学校の低学年から高学年まで幅広く、これまでに各講座とも150名ほどが受講。その約半数はリピーターです。中には、講座の前後で、講師に英語で話しかけてくる子どもがいたり、単語だけで表現せず、文章にして話そうと意識し始める子どももいたり、積極的に英語でコミュニケーションを取る姿も見られるようになってきました。



ゲーミング英会話講師のダイヤモンド・ファイト氏

一方、現在の課題と今後の展望について、古川氏は「講師も子どもたちに、習った英語を使うよう促したりはするのですが、やはり取り組み方には個人差があるため、レベル分けも検討中です。中級のクラスを作って、日本語禁止タイムを設けるといった方法も考えています」と語っていました。

子どもたちの更なる成長に寄与できるよう、試行錯誤をこれからも続けていきたいと古川氏。英語の表現などを柔軟に吸収していく子どもたちと切磋琢磨するように、ゲーミング英会話は一層の進化を遂げようとしています。



ゲーミング英会話の様子

IIBC 高校生英語エッセイコンテスト



新しいテーマに込めた思い

IIBCでは、2009年度より「IIBC 高校生英語エッセイコンテスト」を開催してきました。将来グローバルに活躍するであろう高校生の皆さんに、異なる文化を持つ人々と関わりあうことの大切さを考える機会や、自分が考えたことを英語で表現する場の提供を狙いとしています。

21年度までは、エッセイのテーマを「私を変えた身近な異文化体験」としてきましたが、22年度は「身近な異文化体験 ～コミュニケーションを通じた響きあい～」に変更しました。テーマの中に「響きあい」という言葉を盛り込んだのには、ある思いがあります。

私たち一人ひとり、育ってきた環境も違えば、ある事象に対する感じ方や価値観も異なります。文化や習慣、言語が異なる海外の方と接するときには、その違いはより大きくなります。

そうした場面で必要なのは、相手のバックグラウンドを理解するように努めながら、こちらのバックグラウンドについても、相手に伝える努力をすることです。さらに一步踏み込んで、相手の生き方や考え方を深く理解すれば、それに触発され、自分自身の生き方や考え方も、大きく変わることがあります。そのとき、おそらく相手もこちらに触発されて、何らかの変化を遂げているはずで、これが、相互触発による「響きあい」です。

グローバルな場面で、様々な価値観を持つ人々とコミュニケーションを取りながら、より良く、より深い関係を築いていくためには、この「響きあい」の瞬間をどれだけ作れるかが大切になると私は考えています。

昨年までのエッセイコンテストにおいても、「響きあい」を描いた作品は数多く見られました。そのような中、テーマ変更を行ったのは、高校生の皆さんに「響きあい」の大切さをより強く意識してほしいからです。

「響きあい」が重要なのは、日々グローバルな場面で様々な対応を求められている私たち大人も同じです。コミュニケーションとは、相手に合わせて自分をおさえることでもなければ、こちらの要求を一方的に相手に押し付けることでもありません。高校生のみならず、多様な他者と響きあえる関係を構築できる力を持った人材の育成に貢献することは、IIBCの重要な役割であると考えています。



一般財団法人
国際ビジネスコミュニケーション協会
理事長(審査員長)

大橋 圭造

IIBCは2022年も、一般社団法人 日米協会協賛・米国大使館後援のもと、「第14回 IIBC 高校生英語エッセイコンテスト」を開催いたします。21年は、本選に140校・218作品、奨励賞に39校・1,753作品のご応募をいただきました。

詳しい内容はこちらをご覧ください。

<https://www.iibc-global.org/iibc/press/2022/p191.html>



自分が発音できない音は聞き取ることができません。ということは、発音を鍛えれば聞き取ることができるということです。そのためには、早口な英語で発音練習をし、AI音声認識で発音を確認することが有効です。

1) 早口な英語の音声(ネイティブスピーカーにとっては普通速度)を使う

辞書を引きながらある程度英語は読めるけれど、発音やリスニングはダメと言う方々が短期間で大きな成果を上げるためには、ゆっくり発音される英文で発音練習するよりも、いきなり早口な英語の音声を選んで聞きながら、何回もまねして発音することをお勧めします。今までとても無理だと思っていた早口のニュースなどを聞き取ることができるようになります。

まず、インターネット上の早口な英語字幕付きの無料動画をいくつか探して、その中から好きな動画を選びます。そして最初の1~2分の部分を、英語の字幕を見ながら聞いてまねして発音します。練習を続けた後で成長を実感しやすい、今の段階では少し早口だと感じる題材を選べば良いのです。歌や映画、英語のドラマやニュースなど何でも良いのですよ。

すぐにまねして発音できる人が中にはいますが、それは特に耳が良い少数の人です。多くの人は最初のうちは100回程度の反復練習が必要です。知っている単語だけの英文でも聞き取りがダメな原因は、英語の音を聞き取れないからですが、口を高速で動かす練習をしていないことや、英語を理解するスピードが遅いことも原因です。

最初は無理だと思ったスピードでも、さすがに100回繰り返すことで、英語字幕を読むスピードが上がり、発音することができて、聞き取る力がつきます。反復練習の威力です。回数を重ねることで、英文を覚えることができ、発音とリスニングの向上効果が加速します。また動画は話者の口元が見えるので、発音練習に適していますが、音声だけの音源で練習しても構いません。

2) AI音声認識で発音を確認する

発音練習した英文をAI音声認識でチェックしてみましょう。無料で文字起こしをしてくれるものが良いと思います。英文の60~70%程度の単語が認識されるようでしたら、あな

眠っている英語力を 高速音読で目覚めさせよう

Study 1

発音練習からの視点

「英語耳」シリーズ著者

松澤 喜好氏

Point

自分が発音できない音を聞き取ることができない

早口な英語字幕付きの動画で発音練習をする

AI音声認識で発音を確認する



たの発音はAI音声認識を使った練習に進んでも大丈夫なレベルです。それ以下でしたら、改めて英語の子音・母音の発音を練習してください。インターネット上には、無料で子音・母音の発音方法を教えてくれる動画があります。最初は日本語の動画で学び、次にネイティブスピーカーが子音・母音の発音を教えている動画にチャレンジしてください。説明は英語でも、発音できない人向けの動画なので分かりやすいです。または英和辞書の巻末などに発音方法が書いてありますし、発音練習の本を使う手もあります。

AI音声認識を使うと、間違えた音を含む単語が別の単語になって表示されます。発音方法を確認して、舌の動きなどを微妙に変えながら成功するまで繰り返してみましょう。適切な舌の使い方を見付け出す努力が、発音能力と聞き取る力を鍛えてくれます。

3) AI音声認識の使い方

早口の英語は、単語が切れ目なく連続音としてつながっています。単語がつながる様子をリンキング、リエゾン、連結などと言います。日本人には苦手なこのような連続した音を、AI音声認識はとても良く認識します。そのため、自分の発音スピードをどんどん上げてゆく練習ができます。一方、AI音声認識は短い単語の認識が苦手です。RとLを区別しようとして、red、ledを別々に発音しても、うまく認識されない場合があります。「red or led」のように複数の単語を連続して発音する工夫をすると、認識されます。

AI音声認識は、何度間違えても文句を言いません。余計な気を遣わないで発音練習できるので、シャイな日本人に向いています。AI音声認識を使って発音練習をした多くの方々からは、ニュースなどの早口な英語がはっきり聞こえるようになったとの体験談を頂いています。高速音読が、ご自身の眠っている英語能力を目覚めさせる効果を、是非体験してください。

Profile

まつざわ・きよし 1950年生まれ。大学卒業後、富士ゼロックス株式会社(現・富士フイルムビジネスソリューション株式会社)に入社。主にソフトウェア開発に携わり、イギリス駐在も経験。2000-04年まで大学にて非常勤講師として発音を指導。日本音声学会会員、日本英語学会終身会員。Webサイト「英語耳 eigo33」を運営。著書の「英語耳」シリーズ(KADOKAWAなど)の累計発行部数は100万部超。

英語の学習を大人になってから再開したいのだけれど、どこから始めたら良いのか分からない。あるいは、英会話力をもう少しレベルアップしたいのだけれど、効率的な方法は何か、などと悩んでいる方は多いと思います。今回はその方法をシェアしたいと思います。やることはとても簡単でシンプル。3つのことを実行するだけです。

- ・よく聞き、徹底的に音まね
- ・ディクテーション
- ・毎日続ける

まずは、音をよく聞いて、忠実にその音を再現するところから始めると、英会話上達の近道となります。書いてある文字と聞こえてくる音には違いがあります。例えば、下記の片仮名、何と言っているのか分かりますか？ 分かった人はすでに英語の達人です。

ア・リロピッ！／ワラユガナドゥー

ア・リロピッ！ = a little bit

ワラユガナドゥー = What are you going to do?

カジュアルな会話では、going to は「ガナ」という音に変化することが多いです。What are は「ワラ」。全体をくっつけると「ワラユガナドゥー」。ほかにも want to が「ワナ」という音になるのもよく耳にします。また、tの音は「ラ」「ロ」「ディー」の音になったり、音が消えてしまったりと変化することが多いのも特徴的です。

See you later. = スィー ユー レイラ〜 (レイターではなく、レイラ〜)

put on = プロォ〜 (tの音が「ロ」に変化)

Katie = ケイディー (KDのような音)

Good night. = グッ・ナイト (tの音が消えてしまいます)

このように英語には独特の音のリエゾン (音がくっついて別の音に変化すること) や発音されない音などがあるのです。リズム、イントネーション、間の取り方などを徹底的にまねすることにより、英語を聞き取る耳ができるとともに、発音も良くなります。

さて、次に実施したいのは、ディクテーション。聞こえてくる英語を一言一句書き取る作業です。英語は聞き流すだけでは、上達しないのです。今まで何となく聞いて、分かったつもりになっていた英語も、いざ書き出してみると、意外と難しいものです。先述した音のリエゾンなども理解しているとスムーズに書

Study2

ディクテーションからの視点

音まねとディクテーションで英語力を底上げする

English Time 代表

川本 佐奈恵氏

Point

リズム、イントネーションなどを徹底的に音まねする

ディクテーションで文法力を強化

英語学習を毎日の習慣にする

き取ることができますし、文法の強化にもなります。例えば、次の例を見てください。

I never been there. 「そこに行ったことはありません」と話しているのに、経験を語る完了形になっているはず。I've never been there. が正解！ 聞き直してみると、隠れていた have の音が主語の I とくっついて I've と聞こえてきます。

ディクテーションを続けていくと、知らず知らずのうちに文法が強化されていることに気付くでしょう。ディクテーションは英語力底上げの究極の方法です。

さあ、あとは、これを継続

するだけです。「毎日」続けましょう。英語力は1週間に一度大量に勉強するよりも、毎日少しずつの方が伸びます。毎日続けるためには、コツがあります。

- ・ポイント1 完璧を目指さない

まず、完璧を目指さないこと。分からないことに遭遇しても、「ま、そのうち分かるようになるでしょう」と気を楽に、ひたすらまねすることに集中する。

- ・ポイント2 おおざっぱの初め

必ずしも日本語を英語に直訳できるとは限りません。日本語でこういうことを言いたいときは、英語ではこういう風に言えば通じるのだ、とおおざっぱで構いません。一言一句を気にすることはないのです。

- ・ポイント3 仲間を見付ける

これが大きなキーとなると言っても過言ではありません。同じ教材を使い、同じように練習する学習仲間を作ると、英語学

習は長続きます。レベルは違って構いません。インターネットなどを活用して仲間探しをしてみませんか？

英語学習を歯磨きと同じくらいに習慣化しましょう。歯磨きは毎日しますよね。英語学習も一緒です。毎日、学習しないと何だか落ち着かない、というレベルに達すると必ず成功します。私は、32歳のとき、全く一言もしゃべれないところから学習をスタートしました。いつから始めても遅くありません。

Profile

かわもと・さなえ English Time 代表。32歳からNHKのラジオ講座などで英語学習を開始。留学の経験などもなかったが、英語学習を続けることで現在は英会話スクール English Time の代表を務め、NPO法人 TOKYO FREE GUIDE の活動などに携わる。通訳、翻訳などの仕事をしながらボランティア活動、講演なども行っている。「NHKの英語講座だけで驚くほど英語が話せる勉強法」(明日香出版社) など著書多数。



■ 学生向け グローバル・ビジネス・ウェビナー

学生を対象に世界へ目を向けるきっかけを提供  グローバル人材育成プログラム

IIBCは2月17日と3月17日に、グローバル人材育成プログラム(GHRD事業)の一環として、「学生向け グローバル・ビジネス・ウェビナー」を開催しました。

かねてよりグローバル人材育成プログラムでは、IIBCの基本理念「『人と企業の国際化』の推進」の下、グローバルに活躍する方の講演や、インタビュー記事を通じて情報提供を実施。TOEIC® Programの受験や英語学習によって身につけた力を活用する場やチャンスが、世界にはたくさんあることを知ってほしいという思いで取り組んでまいりました。

一方、昨今では新型コロナウイルス感染症の流行によって、留学をはじめとした国際交流の機会が大幅に減少するなど、学生の皆さんを取り巻く環境が大きく変化しています。

そこで、学生の皆さんが世界へ目を向けるきっかけとなる場を提供しました。

第1回・第2回となる今回は、対日投資の促進や農林水産物・食品の輸出、中堅・中小企業の海外展開支援などに取り組む独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)より、二宮美穂さ

んと島田英樹さんに、それぞれご登壇いただきました。

各回とも大学生を中心に約200名の方に参加していただき、終了後のアンケートでも、「日本や世界のために仕事をしたいと改めて強く思った」「海外と日本をつなぐ仕事が多いことを知り、選択肢が広がった」といった声が多く上がるなど、実りのあるものになりました。

お二人のウェビナーは、公式サイトに期間限定で掲載しておりますので、是非ご覧ください。今後もIIBCは本イベントを継続して実施し、学生の皆さんに対して、世界に向けて一歩を踏み出したくなるような情報を発信してまいります。

本イベントへのご登壇にご協力いただける、またはご興味のある企業・団体の方は是非お問い合わせください。

お問い合わせ先： IIBC マーケティング本部 GHRD 室
ghrd-pro@iibc-global.org

第1回

海外を舞台に働くフィールドは数多くある

二宮 美穂さん

独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ) 総務部総務課 兼
デジタルマーケティング部 プラットフォームビジネス課 課長代理

私は大学卒業後、ジェトロに入職し、現在は日本の農林水産物・食品の輸出支援や中堅・中小企業の海外展開支援などを担当しています。日本の商品を扱いたい海外のECサイトと日本企業をマッチングするWebサイトの運営などが主な業務です。

留学経験もない私が海外に目を向けたのには、造園業を営む父の存在が関係しています。イギリスのある園芸ショーで、父がゴールドメダリストになりました。それまで私は日本庭園の魅力が分からなかったのですが、海外で認められたことで、日本文化を誇りに感じたのです。それから、日本の良いものを海外の人たちに紹介したい、そして日本の人たちに自信を持ってもらいたいと考えようになりました。

ジェトロに入職後、特に英語の面で転機になったと感じているのは、初めての海外出張です。出張先のシンガポールでは、聞き慣れないアクセントだったこともあり英語を

聞き取ることができません

でした。私自身、それなりに

英語は話せると思っていた

ので落ち込みましたが、英語を流ちょうに話すことだけが目指すところではないと思い直しました。大局的に見て、自分にできることは何かを考えるきっかけになった貴重な思い出です。

世界を舞台に働く中では、英語が母語ではない人と話す機会も多くあります。英語はあくまでもコミュニケーションツールなので、相手に分かりやすい言葉を選ぶなどの配慮が大切だと考えています。

ジェトロの利用者は約14万社、40万人ほどで、これから更に増えると言われていています。学生の皆さんが思っている以上に、海外を舞台に英語を使って働くフィールドは多くありますので、是非学びを止めることなく、皆さんの力で日本を成長させていってくださると思っています。



第2回

皆さんの力でこれからの社会を作っていってほしい

島田 英樹さん

独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）イノベーション・知的財産部
スタートアップ支援課 課長、立命館大学客員教授



私は現在、日本のスタートアップの海外展開支援などに携わっており、アクセラレーターやVC（ベンチャーキャピタル）などの専門家と組んで、スタートアップのビジネスモデルのブラッシュアップや、ビジネスマッチング・資金調達のサポート・ネットワーキングなどを行っています。更には、次世代のイノベーター・起業家を育てる事業にも取り組んでいます。

「VUCA」という言葉を御存じでしょうか（「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」の頭文字を取った言葉）。この言葉が表すとおり、現在様々なイノベーションによってビジネスや社会の在り方が劇的に変化しており、ビジネスモデルにも大きな変革が求められています。スタートアップはスピード感があり、斬新なアイデア・技術で変革を起こしていく存在であり、この移り変わる時代に次世代の経済成長の中核を担う存在です。事実、企業価値を表す指標の1つである時価総額の世界ランキングを見ても、2022年5月時

点で上位10社の内6社がスタートアップから始まった企業です。

スタートアップやエコシステムにおける日本の立ち位置は、現在のところ世界の中で決して高いとは言えませんが、これからは市場、人材、資金の獲得などで海外を視野に入れることが不可避です。日本企業の海外展開はこれからも増加傾向にあるはずですし、海外に関心を持つ人もまだまだ増えると思います。

スタートアップの世界では「DAY1から海外に」と最初から海外を目指すことを意識する言葉があります。また海外展開をするスタートアップの経営者が「なぜ海外に進出したのか」と問われたときに、「やりたかったからです。気持ち先行です」と答えたそうです。学生の皆さんも、海外を舞台に働いてみたいというシンプルな気持ちで行動に移してみてはいかがでしょうか。これからの社会を作っていくのは皆さんですから、是非挑戦してほしいと思います。

二宮さん、島田さんのウェビナーは期間限定でこちらからご覧いただけます。
https://www.iibc-global.org/ghrd/global_business_webinar.html



■ IIBC コーポレートスローガン

新スローガンでIIBCの姿勢をより明確に

IIBCでは、2012年4月に実施した一般財団法人への移行を機に、コーポレートスローガン「世界は、あなたでつながる。」を掲げてまいりました。グローバルでの活躍を願う方々の背中を押すメッセージとして10年にわたり使用してきましたが、今のIIBCを取り巻く環境により合った内容に見直し、22年4月より変更いたしました。

新しいスローガンは、「あなたが世界をつなぐ あなたと世界をつなぐ」です。IIBCのミッション「グローバルコミュニティにおける円滑なコミュニケーションの促進」を踏まえて、メッセージの受け手である「あなた」をサポートする姿勢を、より明確にお伝えしたいと考えました。

新しいコーポレートスローガンの下、今後もIIBCは「人と企業の国際化」に貢献し続けてまいります。

新スローガン

あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

新ロゴ

あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

TOEIC® Program エピソード

ETSのテスト品質3要素

IIBC 調査研究室

本連載では、TOEIC® Programを開発するETSが、テスト品質の維持向上のためにやっている取り組みについて、お伝えしていきます。まず、「テストの品質」を具体的にイメージしていただくために、逆に「こんな品質のテストでは困ってしまう」という例を挙げてみたいと思います。

1. 測るべきことを、測れていない
(的外れな問題が多い)
2. テスト結果に一貫性がない
(難易度が毎回著しく異なる)
3. 誰にでも公平なテストになっていない
(特定の文化等に偏った問題が多い)

いかがでしょうか？ これでは、安心して受験することはとてもできません。裏返せば、これら3つの点を満たすことは、テストの品質を担保する上で必須と言えます。テスト用語ではそれぞれ、「妥当性・信頼性・公平性」と言い換えることができます。

1. 測るべきことを、測れている → **妥当性がある**
2. テスト結果に一貫性がある → **信頼性がある**
3. 誰にでも公平なテストである → **公平性がある**

そして、この3要素を高水準で満たすことこそ、TOEIC® Programを開発するETSが、テスト品質維持の基本方針としていることなのです。「テストに妥当性・信頼性・公平性がある」ことは、一見当たり前のように思えるかもしれませんが、**ETSではこれらの要素が、科学的なエビデンスに裏打ちされていることを重視して**

す。そのため研究員らが量的データに基づくリサーチと検証を重ね、この3点を高水準で満たしているかどうかを常に自己点検し、テスト品質の維持向上に努めています。また、エビデンス情報もホームページや学会等を通じて開示しています。

今回は、3要素の1つである「妥当性」について、少し見ていきたいと思います。先述のとおり、「妥当性がある」状態とは「測るべきことを「測っている」状態を指します。では、「測るべきこと」とは何を指すのかと言えば、当然、そのテストが「測定対象としている能力」ということになります。TOEIC® L&Rを例に取れば、「グローバルな日常や職場でコミュニケーションをするための国際共通語としての英語リスニング&リーディング力」となります。1979年のローンチに向けてTOEIC® L&Rの開発に

着手したETSは、この「国際共通語としての英語」を正確に捉えるために、実地調査を実施しました。国際企業で働く非アメリカ人や、英語を母語としない地域で英語を教える教員へのヒアリングを通じて「国際共通語としての英語」の特徴を明らかにし、理論と実地の両面からの検証を重ね、測定対象の言語モデルを構築していきました。この科学的な手続きこそが、妥当性あるテスト開発の出発点となり、第1回公開テスト実施後に行われた検証によって、その妥当性が実証されるに至った訳ですが……この続きはまた次回にしましょう。



TOEIC® L&RはTOEIC® Listening & Reading Testの略称

本誌は公式サイトでもご覧いただけます。

https://www.iibc-global.org/iibc/activity/iibc_newsletter.html

IIBC NEWSLETTER

検索



IIBC

あなたが世界をつなぐ
あなたと世界をつなぐ

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>

外部からの寄稿や発言は、必ずしも当協会の見解を表明するものではありません。

【お問い合わせ】

東京

名古屋事業所

大阪事業所

東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル

愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル

大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル

TEL.03-5521-5901

TEL.052-220-0282

TEL.06-6258-0222